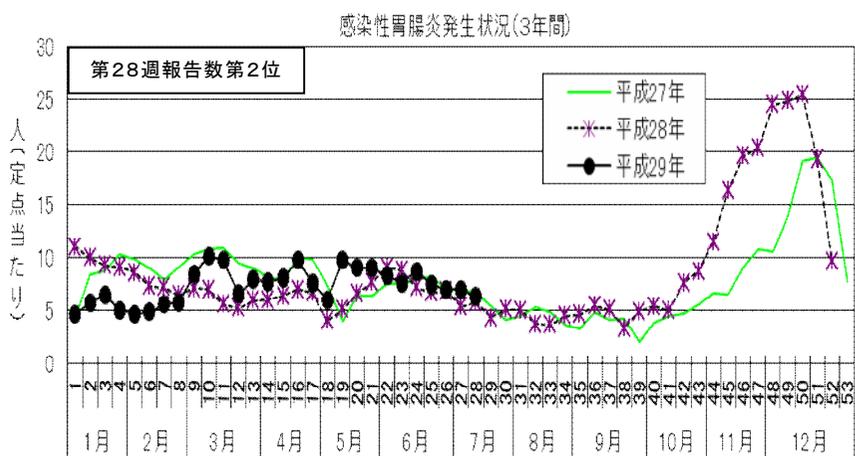
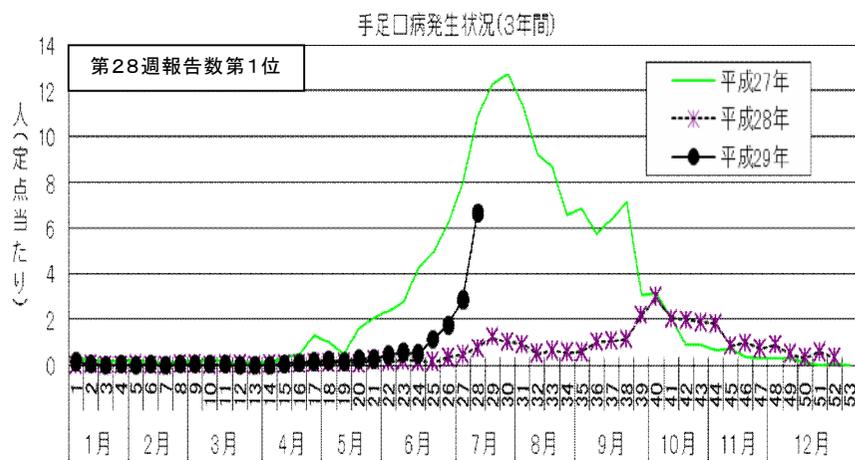


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成29年7月10日（月）～平成29年7月16日（日）〔平成29年第28週〕の感染症発生状況

第28週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)ヘルパンギーナでした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は6.67人と前週（2.89人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.31人と前週（6.97人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は3.86人と前週（2.06人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



手足口病流行発生警報発令！

現在、全国的に手足口病が流行しています。川崎市においても、第28週（平成29年7月10日～7月16日）の定点当たり患者報告数が6.67人となり、流行発生警報基準値（定点当たり5人）を超えたため、市内に流行発生警報を発令しました。川崎区、高津区、宮前区を中心に報告数が増えています。

手足口病の原因ウイルスは、コクサッキーウイルスA群（CA）、エンテロウイルス71型、エコーウイルスなど様々ですが、今年は川崎市を含め全国的にCA6型が多く検出されており、大きな流行があった平成25年や平成27年と同様の傾向がみられます。

＜CA6型による非典型的手足口病＞

- 近年のCA6型による手足口病では、従来の典型的な所見と異なる事例が報告されています。
- ✓ 発疹の出現部位が従来と異なり、お尻、腕、太ももなどにもみられる。
- ✓ 水疱性の発疹が従来よりも大きい。
- ✓ 発症から数週間後に、爪が脱落する「爪甲脱落症」が報告されている。

